

(1) 広域交通網の整備推進

現状と課題

- 九州の西側に比べ、鉄道サービスや高速道路網の整備が遅れている九州の東側に位置する本県では、北九州や熊本、宮崎方面との交流や物流の円滑化が求められています。
- 県外からの観光客の誘致や産業競争力の向上のためには、広域的に人やモノの移動を支える高速道路や本県の地理的特性を踏まえ、陸上・海上・航空輸送の総合的な交通ネットワークの形成が不可欠です。
- アジアからの観光客や留学生の増大、県内企業の海外進出などに対応するため、国際航空路線の維持・拡充が求められています。
- 大分空港の利用者の減少に歯止めをかけるため、利用促進のための取り組みが求められています。



これからの基本方向

- 広域交通網の形成のため、高規格幹線道路や地域高規格道路、港湾施設などの整備を進め、地域の産業や広域交流を支援します。
- 物流効率化や生活圏拡充を支援する高速 I C アクセスを強化します。
- 日豊本線の高速・複線化をはじめ各路線における利便性・快適性の向上に取り組めます。
- 本県の魅力発信の強化などを通じた観光誘客や企業ニーズに応じた立地環境の整備などを通じた企業誘致による交流人口の拡大に合わせ、大分空港発着の航空機の利便性向上や、大分空港と県内各地とのアクセス改善・情報提供の充実などを行うことにより、国際・国内航空路線の維持・拡充を図ります。
- 瀬戸内海を挟んで関西・四国とつながる地理的特性を生かし、関西の活力を本県の発展につなげるために必要なフェリー航路をはじめ公共交通機関の利用促進に努めます。

主な取り組み

1 広域交通網の形成

- 高規格幹線道路である東九州自動車道の北九州～大分～宮崎間の平成26年度全線開通に向けた、椎田～中津～宇佐間、佐伯～北川間の整備促進
- 地域高規格道路である中九州横断道路、中津日田道路、大分中央幹線道路、宇佐国見道路の整備促進
- 中津港、佐伯港などの港湾の整備促進
- インターチェンジの追加整備など高速道路の利用促進
- 高速 I C と物流拠点などへのアクセス強化



着実に工事が進む東九州自動車道 (佐伯市)

2 鉄道の利便性・快適性の向上

- 日豊本線の複線化、佐伯駅以南の高速化の促進
- 日豊本線のフリーゲージトレイン[※]導入促進
- 各路線における新型車両の導入促進

3 大分空港の利便性の向上

- ソウル線の定着化と新規国際路線の誘致
- 国内航空路線の維持・拡充
- 国際化が進む羽田空港経由の国内外への乗り継ぎの円滑化
- 県内各地域と大分空港との交通アクセスの改善
- 観光情報の発信などによる大分空港の利用促進



大分空港と県内各地域を結ぶアクセスバス

4 本州・四国と本県を結ぶフェリー航路の利用促進

- フェリー事業者が行う利用促進の取り組みへの支援
- フェリー航路の利用拡大をとまなう観光客の誘致及びモーダルシフト[※]の推進

目標指標

指標名	単位	基準値	年	H22年度		H27年度
				目標値	実績値(見込)	目標値
大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域(面積)の割合	%	57	H16	—	68	70
高速道路 I C に概ね30分で到達できる地域(面積)の割合	%	58	H16	—	75	84
フェリー航路の利用台数	万台/年	102.2	H16	—	72.7	85
大分空港の利用者数	万人/年	187	H16	200	148	150

(2) 地域生活交通システムの形成

現状と課題

- 自動車への依存度が高い本県では、住民の日常生活を支え、県内各地域間の交流人口の拡大につながる道路や地域公共交通ネットワークの整備が重要です。
- 過去に整備された道路施設の老朽化への対応が課題となっており、適切な維持管理や更新時期の平準化が求められています。
- 高次医療施設などの高次都市機能は都市部に集中しており、救命率の向上などのためには、都市部とのアクセス時間を短縮することが必要です。
- 都市部で朝夕を中心に発生している交通渋滞は、沿道環境の悪化や経済効率の低下などを引き起こしています。
- 利用者の減少により、公共交通機関のサービスが低下しており、特に高齢者や子どもの生活に必要な交通手段としての公共交通機関の維持が求められています。
- 自家用車と公共交通をバランスよく利用することにより、公共交通機関が活性化され、県民誰もが必要なときに公共交通を利用できる社会の実現が求められています。



大分駅連続立体交差事業完成予想図

これからの基本方向

- 県内各地域間の連携・交流や救急医療活動などを支える道路整備を進めるとともに道路資産の効率的・計画的な維持管理を推進します。
- 交通渋滞対策や環境対策として、市街地の交通円滑化や公共交通の利用促進を図ります。
- 複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス路線の維持・確保に積極的に取り組むとともに、地域の特性や利用実態に応じた地域内の公共交通サービスの確保に向けて、市町村を主体とした計画づくりや計画に基づいた各地域の取り組みを支援します。

主な取り組み

1 地域の生活を支える道づくりの推進

- 隣接地域間の連携・交流を支える道路の整備推進
- 救命救急センター[※]や2次救急医療施設[※]へのアクセス道路の整備推進
- 道路資産の効率的・計画的な維持管理の推進



橋梁の計画的維持管理（中津市）

2 都市圏域の交通円滑化の推進

- 交差点改良、ボトルネック[※]対策、踏切道の改良推進
- パークアンドライド[※]など交通需要マネジメント（TDM）[※]施策の推進
- 大分駅付近連続立体交差事業など都市計画道路の整備推進



庄の原佐野線完成予想図（大分市）

3 地域公共交通の維持・充実

- 維持困難な離島航路及び生活交通バス路線への助成
- 地域公共交通の維持・充実に向けた市町村職員研修の支援
- 「バスなび大分」、「バスロケおおいた」など公共交通に関する情報提供の強化やICカード「めじろんnimoca」の機能向上、バリアフリー[※]施策の実施などを通じた公共交通を利用しやすい環境の整備



ICカード「めじろんnimoca」

目標指標

指標名	単位	基準値	年	H22年度		H27年度
				目標値	実績値(見込)	目標値
各市町村の中心部まで概ね30分で到達できる地域(面積)の割合	%	74	H16	—	76	77
救命救急センターに概ね60分で到達できる地域(面積)の割合	%	64	H16	—	77	82
渋滞対策が必要な箇所数	箇所	22	H16	9	8	5
公共交通機関(バス)の利用者数	万人/年	2,178	H16	2,170	1,988	1,990